

【小学校・総合的な学習の時間】

平成30年度の重点

1 指導計画及び評価計画の工夫・改善

- 学習活動が探究的な学習として充実したものとなるよう、全体計画、年間指導計画の見直しを継続的に行う。また、これらの指導計画に示した「目標」「内容」「学習活動」「指導方法」「指導体制」「学習の評価」について、自己点検・自己評価を行う。
- 各教科、道徳、特別活動など学校のあらゆる教育活動との関連を図り、各教科等で習得した知識や技能が、実生活や自ら学び考える学習の中で総合的に働くよう、指導計画の工夫・改善に努める。
- 評価の観点は、学校の教育目標や総合的な学習の時間で育てたい力をもとに、具体的な子ども像が明確になるように設定する。

2 指導方法及び評価方法の工夫・改善

- 必然性のある問題の解決や探究活動のまとまりとなるように、単元を適切に作成する。
 - ・「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という学習過程をスパイラルに繰り返し探究的な学習とする。その際、学習内容に応じた多様な学習形態を工夫する。
 - ・適切な教材を用意するとともに、教師が適切に指導をする。
- 互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換や交流活動など、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を重視する。
 - ・多様な考え方をもち他者と適切にかかわり合ったり、社会に参画したり貢献したりする態度を養う。
- 適切な計画を確実に実施していくため、校内の指導体制を整備する。
 - ・校内組織、年間授業時数確保・弾力的授業時数運用、学習空間・学校図書館・情報環境、外部との連携構築等を整備する。
- 児童にどのような力が身に付いたのかを明確に評価し、指導と評価の一体化を図るよう努める。
 - ・学習状況の結果だけでなく、学習過程を含めて多様な評価をする。その際、個人として育まれるよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、児童自身も自分のよい点や進歩の状況に気付くようにする。

3 指導における留意点

- 体験活動を問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付け、体験活動がそれだけで終わることなく、体験活動を行うことによって児童の学習を一層充実したものとなるようにする。
- 言語により整理・分析し、それをまとめたり表現したりするなど、自分の考えを深める学習活動を重視する。
- 総合的な学習の時間の特質に応じて、道徳教育の目標に基づいた道徳科などとの関連を考慮し、適切に指導する。

参考

◆県教育委員会ホームページ

- 評価資料集Ⅲ－評価活動の参考資料として－小学校

<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/363881.pdf>

- 教育課程編成の指針（幼稚園、小学校、中学校）小学校総合的な学習の時間（平成30年作成）

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/kyouikukateisisinn.html>

◆文部科学省ホームページ

- 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1300434.htm

- 総合的な学習の時間の応援団のページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/syokatsu.htm

- 移行措置関連資料

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387780.htm